

目的 妊産婦の衣服寸法設定の基礎資料を得ることを目的とし、昭和45～46年に妊産婦220例の測定を行ない、その結果を本学会で報告したが、今回は同一対象の4～10・産後1ヵ月時の月別追跡測定を重点的に行ない、妊娠月毎の身体各部寸法、各月間の増減、体型の変化などを検討したので報告する。

方法 昭和48年10月～51年4月間に、東広島市とその近郊の妊産婦30例を測定し（マルテン氏計測法による）、うち6例はシルエット撮影を行なった。測定項目は長径、周径、横・矢状径、体角、体重、子宮底長などの計34項目で、今回は19項目について考察した。

結果 (1) 妊娠4～10ヵ月間に前胴高7.4cm(8%)、股上前後長19cm(27%)、胴囲18cm(26%)、胴部矢状径8.5cm(46%)、腹角25°(129%)、体重11kg(22%)増加し、いずれも1%水準で有意である。月間の増加は5～8ヵ月間が大で、特に5～6ヵ月間が著しい。殆んど増加しないのは身長、臍高である。(2) 胴・腹部矢状径の増加は、横径より大で、4ヵ月時の胴部横径は23.3cm、矢状径は18.6cmで横径が大であるが、10ヵ月時は26.0cmと27.0cmで矢状径が大となる。矢状径の大きなものが胴部で70%、腹部で23%である。(3) 産後1ヵ月時の復元状態は、腹角が3ヵ月時の角度に殆んど同じで、前文・前胴高は4ヵ月時、胸・腹・腰囲、体重、胴部横径は6ヵ月時にほぼ等しい。(4) 対身長の相関は、前文、股上前後長をのぞく長径項目が0.8以上、対体重、対胸・腹囲の周径項目と横・矢状径項目、体重の大部分が0.6以上の相関で、さきめて低いのは、対身長では周径項目、対体重では臍高と腹角、対胸・腹囲では股上前後長を除く長径項目と腹角である。